

<https://www.pucv.cl/pucv/noticias/destacadas/referente-de-la-matematica-es-el-nuevo-profesor-honoris-causa-pucv>



Inicio > Noticias > Destacadas

Referente de la Matemática es el nuevo Profesor Honoris Causa PUCV



Jueves 16 de marzo de 2023

Referente de la Matemática es el nuevo Profesor Honoris Causa PUCV
新たにバルパライソカトリック教皇大学 PUCV 名誉教授称号が数学研究所の推薦により授与されました。

Jueves 16 de marzo de 2023
2023 年 3 月 16 日 (木)

カサ・セントラルのエミリオ・タグレ司教ホールで、我が国(チリ)、特に本学院の数学研究所(IMA)と緊密な国際協力関係を築いてきた筑波大学礒田正美教授のバルパライソカトリック教皇大学 (PUCV)新名誉教授授与式が行われました。



左から Cristian Eichin 神父(副学長)、礒田教授、Nelson Vásquez 学長



謝意を述べる礒田教授

チリへの継続訪問を通して、礒田教授は、チリの学校数学の学習改善に不可欠な要素を認め、授業研究に裏付けられたオープンエンドな問題解決の指導を推進し、子どもの数学的思考の発達に関する深い知見を提供してきました。

数学研究所ライムンド・オルフォス教授は、この学習指導法は、学生が共同体の中で成長す

<https://www.pucv.cl/pucv/noticias/destacadas/referente-de-la-matematica-es-el-nuevo-profesor-honoris-causa-pucv>

ることを学ばなければならないという意味で、今の時代に最適と次のように振り返ります。「教室内で一層多くの協働作業を進めることは、現代社会の要請です。最新テクノロジーによって多くの協働機会が生まれました。その協働的な教授学習を実現するために、この問題解決の指導法が、世界のさまざまな地域で培われています。私たちにとって、それは国としての改善と重要な変化を意味します。」

数学における授業研究の利点は何か？ 生徒の学習に常に焦点を当て、教師相互に対称的かつ信頼しあう関係を促進し、相互学習の習慣をもたらし、教師が授業の構成に気を配り、自身の指導が備えるべきインパクトについて共通のビジョンを持つことができることです。そのために礒田教授と我々が開発した1年生から6年生までの教科書は、チリの学校で約70%が採用しています。それは日本では150年以上前から築かれてきた指導法を盛り込んだものです。

「授業研究では、知識の構築を可能にする研究と行動の意味を熟慮する。通常、指導法と言えば模倣されるだけのものと受け止められますが、授業研究の場合、質的な知識の創造を可能にします。質的な知識の創造とは、教師自身が、自分たちの環境に立って考えること、国や学校のカリキュラム、共通ビジョンを鑑みることによるものであり、他者を理解すること、学校の目標、保護者の願いを理解することによるものです。授業研究ではコミュニティに応じて指導法を構築します」とオルフォス教授は付け加えた。

礒田教授との学術連携では、数学研究所は18年以上にわたって協働してきました。PUCVの教育では、幼稚園、初等教育、中等教育、そして数学教育学修士課程に至るまで、さまざまなレベルで問題解決の指導が取り入れられ、授業研究を基に論文が構成されています。そして、教員養成に大きなインパクトを与えるが故に、何名もの博士課程院生や卒業生が利用しています。

PROFESOR ISODA: “ES UN GRAN HONOR”

礒田教授：「たいへん光栄です」

礒田教授は、「PUCVから名誉教授の称号を授与されたことは、私にとって大変名誉なことです。筑波大学と数学研究所とは18年以上のつながりがあり、チリでの数学教育に貢献しつつ、数学の博士課程などとの、さまざまなプロジェクトで一緒に仕事をしてきました(...)筑波大学(教育開発国際協力研究センター)では、幾多の国と国際水準での数学教育を改善に資するべく、密接な協働研究を展開し、幾多の研究成果を生み出してきました」と述べています。

<https://www.pucv.cl/pucv/noticias/destacadas/referente-de-la-matematica-es-el-nuevo-profesor-honoris-causa-pucv>

数学研究所のライムンド・オルフォス教授、アルトゥーロ・メナ教授、ソレダ・エストレラ教授が日本に滞在し日本の小学校の教科書 11 冊が翻案され、それがまずはメキシコ教育省傘下の全教員養成大学の教科書に採用されました。2020 年には、その教科書は、チリの教育課程基準に準じて翻案され、現在、使用されています。

名誉教授の叙勲は、PUCV の副学長であるクリスティアン・エヒン・モリーナ神父とネルソン・バスケス・ララ学長から授与されました。



学長、副学長、理学部長、数学研究所長、教員、院生、授業研究関係者 40 名が式典に参加



ライムンド教授(前チリ数学教育学会会長)

Dirección de Comunicación Estratégica

戦略的コミュニケーション本部

DeepL による和訳改